

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立南部高等学校

校長名：内川 さやか

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・学んだことを活かして、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。
- ・自分の将来に前向きな展望を持って進路を切り拓くことができる人材を育成する。
- ・地域との連携や活動を通して、仲間や社会とのつながりを大切にできる人を育成する。

学校評価の公表方法

HP による公表。
学校運営協議会等に周知する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月3日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	キャリア教育の充実 地域社会の一員としての自覚をもち、地域の発展に貢献できる若者を育てる。	B	基礎学力を定着させるための補習・個別指導の充実	朝の学習の評価 第1希望就職率は100%か	B	○朝の学習の時間については、成果は見えにくいですが、出席率は非常に良好。第1希望就職率は、100%であった。	○学習指導要領の趣旨を理解し、わかる授業の確立を目指して指導法の工夫・改善を引き続き行う。 ○関係機関との連携をさらに深め、早期から計画的に勤労観の醸成を図り、早期離職者の防止に努める。 ○景気に左右されない実力をつけ、就職内定率100%を目指す。
			総合的な探究の時間を活用したキャリア教育の実施	振り返りシートの活用 進路目標が明確になったか	B	○総合的な探究の時間をより活用した新たな取組のための準備を行った。	
			進路実現に向けた機会を提供し、卒業後、進路先で適応していける力をつける	進路ガイダンス等の実施回数、面接指導への参加状況	B	○面接指導の参加状況は、全体的に良好。進路ガイダンスは1年：6回、2年：4回、3年：2回。その他、就職指導員より3回実施した。	
2	授業力の向上 インクルーシブ教育の観点から生徒の学習面の課題を理解し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかる、力がつく」授業の工夫に力を注ぐ。	B	特別支援の視点を取り入れた研究協議会等を実施	研究協議会の実施回数 授業の工夫の共有	B	○つなぎ愛シートを活用する上での研究協議会を2回実施した。	○教育相談、特別支援体制の充実を図り、インクルーシブ教育を推進していく。 ○ICT 機器を用いた授業づくりの必要性をさらに認識し、推進に努める。 ○生徒一人一人をしっかりとアセスメントし、やる気を醸成する。
			ICT を活用した授業の充実	ICT を活用した授業の工夫の共有化	A	○朝学や各授業で、大半がICTを活用した授業を実践することができた。	
			指導と評価の一体化を図る	評価基準を生徒にフィードバックできたか	B	○各教科で評価基準を説明した上で授業に取り組んだ。	
3	マナー・モラルの向上 生徒の生活面の課題を理解し、安全で安心できる社会を構成するひとりとして、規範意識・人権感覚を持った若者を育てる。	B	人権学習の充実	人権 LHR・研修会の実施	B	○年間3回人権 LHR を実施した。計画的な取り組みが必要である。	○美化や環境保全の態度を養う機会を設定する。 ○粘り強く、家庭連絡を行い、家庭と一体となった指導に努める。 ○挨拶の大切さをさらに理解させ、粘り強く指導する。
			ルール・マナー指導及び命の大切さについて啓発していく	指導件数の推移、あいさつの徹底、講演会の実施回数	B	○学年 A S や Web を活用した講演会を各学期2回以上実施した。	
			特別支援の観点での指導支援体制の構築	校内外の指導体制の明確化	B	○校外の関係機関（若者サポートステーション等）との合同会議を実施。	
4	学校力の発信 生徒の活躍や本校の特色ある教育、そして本校の教育資源を地域のみならず全国に積極的に発信する。	C	HP、SNS、マンスリー・農場便りによる情報発信	HP 等の更新頻度・SNS のフォロワー数、販売来客数	B	○HP、SNS での発信をより充実させ、学校力を発信し広報に努めた。	○本校の魅力を地域や中学校関係者および中学校生徒・保護者等に伝えるよう工夫する。 ○マンスリー、農場便りを毎月町内や近隣市町村に配布した。 ○地域・他校種・企業・大学等との交流を積極的に行う必要がある。
			小中学校との交流や訪問	交流や訪問の回数、内容の満足度、入学志願者数	B	○食と農園科の施設等を活用し、他校種との交流機会を多く提供できた。	
			地域、企業、大学等との連携	連携の程度と内容	C	○今後さらに積極的な連携を構築できるよう研究・実践する必要がある。	

学校関係者評価（2月13日実施）

今年度、学校運営協議会を3回（5月・11月・2月）実施した。第1回は、学校運営の基本方針及びスクールポリシーの承認。きのくにコミュニティスクールの説明。「南高版インクルーシブ教育（特別支援教育）」について協議、意見交換を行った。第2回は、一昨年度から協議している南高創成プロジェクトを基にした学校の取組に対し、継続した協議を行った。また、授業見学の後、調理コースの生徒達が作った弁当を試食していただきオンラインアンケートを実施。第3回は、本年度の学校運営について報告と協議の後、生徒と教職員の学校評価アンケート結果について共有した。また、来年度より「南高版コミュニティスクール」の実現に向け2つの分科会（キャリアチーム、広報チーム）と評価部会の創設及びコーディネーターを設置することで、本校スクールポリシー実現をめざす。

学校評議員、育友会役員、及び保護者に学校関係者評価を実施。
<プラス面>

以下は、ほぼ全員が「十分である」か「ほぼ十分である」と回答した質問

○活発に生徒会活動を行っている。

○校舎や校庭の整備が行き届いている。

○健康や安全に関する指導を適切に行っている。

<マイナス面>

アンケート項目の内、「明るく生き生きと学校生活を送っている」と「進路に関する情報を生徒や保護者に十分に伝えている」「地域等の活動に対して協力的である」「PTA活動は活発である」については、他と比べて「十分である」の比率が少し低い。

<直接的な意見>

学校に対していくつかの感謝の言葉があると同時に、更なる教育の充実を望む声もあった。

○新聞で知る生徒の活動など、学校へ訪問するのが楽しみです。

○生徒一人ひとりにきめ細かく指導してくれたのでとてもありがたかった。

○放課後や土日の生徒の活動の充実と積極的な働きかけが必要。